



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱つだぬま		
保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 7日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 2月 7日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりの発達や特性に応じた個別支援計画を丁寧に作成・見直し、発達段階に合わせた支援を行っています。個別支援を大切にしながら、運動や制作、集団活動などさまざまなプログラムを取り入れ、子どもたちが無理なく成長できる環境づくりを心がけています。	個別支援計画に基づき、日々の療育内容や目標を明確にしながらか支援を実施しています。発達段階に応じたプログラム構成を意識し、ステップで成功体験を積み重ねられるよう工夫しています。また、「楽しい」と感じられる活動を大切に、遊びの要素を取り入れながら、子どもたちが主体的に参加できるよう支援しています。職員間でもこまめに情報共有を行い、より良い支援につなげています。	今後は、研修の機会を増やし、専門知識や支援力の向上に努めていきたいと考えています。 また、子どもたちがより楽しみながら活動に参加できるよう、プログラムや教材の工夫を重ね、安心して過ごせる環境づくりを続けていきます。
2	保護者支援を強みとしており、日々の丁寧な情報共有に加え、支援内容について定期的に分かりやすく説明する機会を設けています。また、必要に応じて個別相談に対応するなど、安心して相談できる体制を整えています。	毎日の活動内容やねらいを写真とともに伝え、支援の見える化に努めています。また、ご家庭からの報告や相談には送迎時や電話やLINE等で迅速に対応することを心がけています。	これまで実施できていない保護者会の開催に向け、来年度は保護者と子どもが一緒に楽しめるイベントを企画します。また、支援の見える化をさらに進めるため、療育参観の導入を検討しています。
3	SNSでの積極的な発信を強みとしています。アプリHUGの活用に加え、Instagramやリタリコを通して、活動報告や支援内容を丁寧に発信しています。	発信内容は職員間で確認し合い、写真の公表には十分配慮しています。また、事業所の特色や支援のねらいを明確に伝えることを意識し、見学や相談につながる発信を行っています。	今後は、避難訓練や研修の様子も発信し、事業所の取り組みをより幅広く伝えることで、さらなる「見える化」を実現していきたいと考えています。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者参加型イベントの開催が少なく、保護者や事業所での様子を直接知る機会が十分確保できていなかった。	・夏休みに保護者参加イベントを実施したが十分な周知ができていなかった。 ・体制変更の影響により、企画・実施体制が整いにくい状況があった。 ・年間計画として明確に位置づけられていなかったため、継続的な実施に至らなかった。	年間スケジュールに保護者会・参観日を計画的に組み込む。普段の療育の様子がみられる「療育参観」の導入。無理のない範囲で広い会場を確保し、参加しやすい形で保護者会を開催する。事前案内の方法を工夫し、早期周知を徹底する。
2	避難訓練は実施しているが、その内容や実地状況について保護者への周知が十分とは言えない。	避難訓練を療育活動の一環として実施しているが、結果や具体的な内容を保護者に丁寧に共有できていなかった。年間計画や報告方法が明確化されておらず、情報発信が継続的に行われていなかった。	避難訓練の実施内容や様子を文書や掲示等で保護者へ定期的に周知する。年間計画に基づき、実施時期と報告方法を明確にする。療育参観と合わせて保護者参観型の引き渡し訓練を実施し、実際の流れを共有する。
3	地域交流や幼稚園・保育園との交流機会が少ない 兄弟支援の取り組みが十分とはいえない 地域での買い物支援や外食支援などを実施しているが、療育的意義の発信・アピールが弱い	地域交流イベントの企画・開催には人員や時間の確保が難しい 外部機関との調整や継続的な関係づくりに十分な余力がない 日々の支援に重点が置かれ、取り組みの広報（SNS・発信）が後回しになっている 兄弟支援の必要性は認識しているが、具体的なプログラム化ができていない	地域交流イベント開催にこだわらず、日常の外出（買い物・外食等）を「地域参加型療育」として位置づけ、目的や成果を明確化する 外出支援のねらい（社会性・コミュニケーション・金銭理解等）を可視化し、保護者へ説明・SNS等で発信する 幼稚園・保育園とは行事参加ではなく、情報共有や見学など小規模な連携から始める 兄弟向けの説明会や交流時間の設定など、小さな取り組みから段階的に実施する 定期的に広報担当を決め、活動発信を習慣化する